



あつまで
I LOVE ATSUMA
いきる。

新町
早川 律子さん (45歳)
「ペットに優しい町を
めざそう」

「小さい頃からの夢が叶って嬉しいですよ」と話すのは、昨年8月から京町地区でペットホテルを営む早川さん。

「小学生の頃は、親の転勤で引っ越しが多くペットを飼えませんでした。当時から動物が大好きで、ペットを飼ってもいいのに動物図鑑をずっと読んでいました」と話す。

早川さんは、高校卒業後、札幌市の自動車販売店に13年務めていたが、近所のペットショップで従業員を募集していることを知り、憧れだったペットショップの店員に転職。ペットショップでは店長、マネージャーも務めた。

4年前に、実家のある厚真町へ転入し、町役場の臨時職員としてスポーツセンターに勤務。「次の仕事を探していた時、スポーツセンターの清掃員の方に「ペットを預かる仕事をしてみたら？」と言われたのがきっかけですね。町の職員に相談したところ、起業化支援制度の応募を勧められ起業を決意しました」と話す。

「開業して半年は、コンビニのアルバイトを掛け持ちしていた、想像以上のお客さんの多さに寝る暇もなく大変でした」と振り返る。お店は□□ミで広がり、今では1カ月平均50件の利用があり、町外からもお客さんが来るという。「24時間対応のペットホテルのため、宿泊での預かりの場合はペットも飼い主さんも安心して過ごせるよう動物と同じ部屋で一緒に寝泊まりしています。ペットホテルに預けた後、環境の変化で混乱したり健康状態が変わってしまうこともあるので、できるだけストレスを与えないよう個々に合わせたケアを行っています」と話す。

「お客さんからは病気がしつつけの相談が多く、親身にアドバイスをしています。」

「人手が足りないのと、一緒に働く仲間が欲しいです。また、動物も飼い主も暮らしやすいよう厚真に獣医師を呼びたいですね。あと、ドッグランもあるといいですね」と意欲を燃やす。



厚真中学校での防災学習



定池 祐季
東京大学大学院情報学環
総合防災情報研究センター(CIDIR)
特任助教

剣淵町出身。北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)。北海道大学助教を経て現職。専門は、災害社会学・防災教育。北海道南西沖地震を奥尻島で経験、災害復興と地域防災に関する研究に取り組むほか、各地で防災教育活動を展開している。2014年より厚真町防災アドバイザー。

10月18日、厚真中学校で避難訓練を見学し、防災学習を行う機会をいただきました。厚真中学校では、昨年度から緊急地震速報を活用した地震避難訓練に取り組んでいます。緊急地震速報を見聞きした後に身を守る行動を取ること、地震の揺れが来る前に安全確保がしやすくなります。道内の学校では画期的な訓練です。生徒の多くは、先生の指示がなければ、机の下に入るような行動を取れないようでした。ぜひ、緊急地震速報を見聞きしたときに自ら動けるよう、ご家庭でもご確認をお願いします。

授業では、厚真町版HUGのカード1枚についてじっくり考えました。避難所の簡単な状況と、避難所に来た家族の情報を伝え、校内のどの部屋をどのように使うか、留意すべき点はないか考えてもらいました。生徒のみなさんは、小さな子どもには安全な場所、病気の子どもには安心して過ごせる場所を提供し、元気な大人はみんなのために活躍してもらおうといった、とてもしっかりとした考えをもっていました。その後、各地の被災地で中学生が活躍している例をお話ししたところ、「自分もいざというときにみんなの役に立ちたい」というような感想を寄せてくれ、とても頼もしく思いました。

>> 暴風雪に備えて

気象台では、雪を伴った暴風で重大な災害のおそれがあるときに「暴風雪警報」を発表します。さらに数年に一度の暴風雪が予想される場合には、「数年に一度の猛ふぶき」と「外出は控えてください」をキーワードに、気象情報で厳重な警戒を呼びかけます。

猛ふぶきでは前が見えなくなり、車の運転や歩行が困難となります。また、晴れから一瞬で猛ふぶきが変わるなど天気が急変する場合があります。

もし、吹きだまりなどで車が立ち往生したら、ハザードランプを点灯し、一酸化炭素中毒を防ぐためエンジンを切るか、マフラー付近の除雪が必要です。防寒具や毛布、スコップなどを車に積んでおきましょう。風雪が強くなってきたら、無理せず道の駅やコンビニなどで天気の回復を待つことも身を守る手段です。

また、停電に備え、家にラジオ・懐中電灯・乾電池なども準備しておきましょう。



気象台ノート

問い合わせ 室蘭地方気象台 ☎0143-22-4249